

△その組幸會に、彌之助缺勤のお詫び札に曰く、彌之助勤致すべき處急病致し兼れ候間此段御宥免云々と、この意味、未だに考へても、さっぱり解らず。知つて書いたのなら洒落れた奴、知らずに書いたのなら追拂つて了へ。

△委徹して振はない陸派に、紅一點の花形たる彌之助に、面を賣物にしないで、藝研くやうに切望する。これお前さんの爲めのみに非ず。水平線の低く計なお世話を焼いて置く。

△折角結構な御器量を持たたのが、不幸となつた面々に、綾菊あり月子あり、天二物を與へ給はざるシミつたれさ加減、まことに驚くに堪へたり。綾菊壇のために、月子夫人のために、斯う見えて。

△駕馬の骨を賣つてゐる綾之助、餘程御大切と見えて、初代の肩書を放したことなし、それ程に御執心ならば、謹んで勇退すべきことを好意を以て忠告する。お前さんの過去の榮譽のために、初代といふ御大事な名目のために、更に言へば諸人助けのために。



タクシー自動車

迎月子

東京の自動車は明治四十一年頃には、市中を擧げて漸く十數臺に過ぎなかつたのが、四十三年の末には百餘臺に植え、最近の調査に依ると、警視廳で許可した番號が三百十號で、其中廢車したり、使用に堪へなくなつた爲めに、缺號となつて居るもの約三十臺を除いて、實數が二百七十餘臺、之に皇族方の御所有、歐米大公使館所有の番號なしのものを加へれば、約三百臺に達して居る。市中ばかりでも、約六百臺の自動車がある譯だが、歐米諸國の近況を聞くと、英國が約廿萬臺、米國が約十五萬臺、佛國が約五萬臺、獨逸が約三萬臺で、英國の廿萬臺か、多く

倫敦附近に集中されて居ると云ふのと比較すれば、全く以てお話しにならない少數なのだ。尤も歐米各國では、自動車を製作するに就て、種々の獎勵法が設けられて居る。獨逸政府では民間の製品一輛に、四十馬克の補給費を支出した上、五年間に保存費千馬克を支出する。英國では、間接に保護する方針で、隨時自動車の借上げを行ひ、時には新に製作さして、優等品にして、優等車には獎勵金を與ると云ふ如に、夫々製造するに就て、獎勵法が設けられて居るのだから、製造法が益々進歩して、製出する車が殖える一方なのも無理もない。

▽乗合自動車とタクシー自動車▽

で、英國や米國では製造會社が雨後の筈の如に勃興して、逆も國內では新造車を捌し切れないで、亞弗利加から亞細亞方面へ向けて、盛に輸出されて居るのだ。獨逸や佛蘭西で特に獎勵に意を用ゐるもの、一つは之が爲めだと云ふが、數こそ少ないが日本の

自動車界も、一日と全盛期に近づきゝある。倫敦、巴里、柏林、紐育等の大都會を、縦横に駆廻つて居るタクシーキャップ（辻待自動車）も、七月の中旬から市中に姿を見せ初めた。一體東京以外でも數年前から各地方の乗合自動車は、却々盛なもので、明治四十年前後には、出願したものばかりでも、五十餘ヶ所の多きに達したが、大阪の乗合自動車が蹉跌してから此方、一時は許可を得たものさへ、開業を見合はせる始末となつて、營業を續けて居るもののは、數へる程の少數となつたが、之でも俾賃よりは賃錢が安いと云ふ點から、各地方で計畫するものが殖えて、今では神奈川、群馬、茨城、山形、長野、新潟、愛知、三重、島根、長崎其他の各縣に開業して居るものを始めとして、出願中のものも十數ヶ所あると云ふ位に發達して居る。が、タクシーアuto車は、乗合自動車の如に、一定の賃錢で一定の區域を往復して居るものとは違ふ、歐米の夫れの如に、

辻々に接待を爲て居つて、客が乗つた哩數だけ、車體に取付けたタクシ、メーター（自動料金計算器）に表はれたいの料金を、客から貰ふ仕組になつて居るのだ。

△ 値よりも安い賃錢△

尤も八月十五日から開業した、東京のタクシ、自動車は、今や試みの時代だ。車輛が僅かに、見本として輸入されて居る。タクシ、メーターを使つて、六輛だけ運轉して居る。で、自動車の駐車場も、新橋、千住の各鐵道停車場の外に、品川、目黒、巢鴨、飯田町、上野、兩國、龜戸、南

上野公園、日本橋、京橋、神田橋、飯田橋、水道橋、采女橋、淺草橋、吾妻橋、永代橋、赤羽橋、麻布三の橋、九段坂下、靈南坂下、麹町二丁目、日比谷、茅場町、築地明石町、牛込天神町、赤坂見附外、市ヶ谷見附外、護國寺前、麻布六本木、新吉原京町、洲崎、内藤新宿等に許可を得て居るが、車輛の少ない爲めに、今まで一時間三圓乃至五圓は取られるが、タクシは三人乗で一哩六十錢だ。一人乗つても同じ賃錢だが、それ以上は半哩毎に十錢増で、待時間は五分毎に十錢、雨雪とか夜中とか市外に出るのは、二割乃至五割の割増を取る事になつて居て。例へば新橋上野間は三哩半で一圓十錢、新橋青山三丁目間は三哩が一圓、上野青山間は五哩で一圓六十錢と云ふ勘定だから、三人で乗つて此賃錢を三分すれば、實際値よりも安く附く、時間も頗る早い。上野新橋間の三哩半が、十分か十五分で走らせられる。會社も時間の要らない爲めに、安い値でも割に合ふ勘定となつて居るのだが、其上客に取つては車を乗棄てる處で、賃

錢を拂へば可いと云ふ利益がある。歸りの空車の賃錢は拂ふに及ばないのだ。尤も駐車場から自分の乗る處迄迎へに来させれる賃錢は、前の勘定で拂はなければならぬ。

△ 車の差縁が困難△

が、今この處では如何にも車臺が少ないので、需要は比較的に多いので、會社では毎日車の差縁りに困つて居る。次から次へ車が動いて居るので、時間を持つて今日の何時何分で何處迄來て呉れろと云ふ注文に、一々應じる事が出來ない。地方



タクシの一日

樂屋入

から何時に停車場に着くから、其時間に車を廻して置けと、電報や手紙で注文も来るが、今の車輛では悉く此注文に應ずる譯にも行かない。新橋から出た車でも、小石川本郷呉の上野に近い場所へ客を送つて、歸が空になると、歸の賃錢が上らないから、近い方の上野へ歸ると云ふ様に、少い車が時には一つ所へ集る如な事も出来て、什麼も配置が甘く行ぬ。尤も

這入つて、客を待つ事となつて、自然と配達も良くなるが、今では實際車の差練の上から、空車の駆る時間を限約させる爲めに、市外へ出る客は可成断つて、市中でも車の出し方に餘程注意をして居るらしい。雖然米國へ注文した新車輌の半數の五十臺は、十一月の下旬に着くと云ふから、十二月からは充分か此不便も省かれるであらう。

▽今では多く娛樂向▽

栗加之には客の方でも一般に、タクシー自動車が甚麼ものかと云ふ事を、充分に了解して居ないのも操車に不便を來す因となる。車臺に附けた自動車料金計算器には、赤地の旗が樹てゝあつて、此旗の立つて居ぬ車は、客のない空車で、計算器は活動して居ないのであるから、途中でも手を上げて呼止めて、之を利用する事が出来る。其一因だ。而して此旗は客が降りれば、運転手は嫌で

客を乗せて旗を樹てない。タクシーキャツブの運転手は、詐欺行爲として容捨なく處分される事になつて居る。が、夫は兎に角今の東京のタクシーは、車輛の少ない關係から、時間を切つた實用向の需要を満す事が、充分に行かないのを、何としても、時間に厳しい制限のない、娛樂向に、多く用ゐられる傾向がある。花柳界の需要も却々少くないそうで、營業時間は夜の十一時限りと爲てあるが、其車が一時二時迄歸つて來ない例も少なくない。が、此車には何れにも車體に二線の白線を引いてあるので、そ

所で、自動車の運転手の事だが、之は唯車を動かせし居ると云ふ事が判ると云ふ如な、僻見を持つお客様もあるとかで、會社では其邊の改良法も研究もして居ると云ふ話だ。

▽何故自動車は多く人を輸ぐか▽

所で、自動車の運転手の事だが、之は唯車を動かせし居ると云ふ事が判ると云ふ如な、僻見を持つお客様もあるとかで、會社では其邊の改良法も研究もして居ると云ふ話だ。

係したもの、運転手は可い給料が貰へると云ふので、二ヶ月か三ヶ月の遽か稽古で免状を貰つたと云ふ側が多い。それに車臺の殖え方が急激で、運転手の需要も急なので、試験をする警視廳でも、餘り嚴重な試験を爲ては合格するものがなくて、車を動かす事が出来まいと云ふ斟酌から、一通りの運轉が出来て、車臺の要所の名稱でも知つて居れば、大抵は及第させる。が、之では完全な運転手は出來やう譯はない。過失の出来勝なのも無理もない。タクシーバー自働車は、今は次から次の注文で支へて居るので、自働車は、今は次から次の注文で支へて居るので、自働車は、今は次から次の注文で支へて居るので、

客が乗棄てた車を引返す爲めには、殆ど全速力で運轉する、上野新橋間三哩半は、規定の一時間十四分走らせて了ふのさへ、隨分険呑な話であるのに、空車は歸りを急いで夫れ以上の速力を出す。過入の多

いのも一つは之が爲めだが、タクシーばかりでなく一般的の自動車の人を轢く場合は、客なり主人なりの乗つて居る場合よりも、空車の時が多いとは、當業者も語る處だ。夫もさうか、一時間廿哩乃至廿五哩の速力で、走つて居る場合も少なくないと云ふ。人を轢くのは全く運轉手の不注意と、不熟練の致す處だ。

△運轉手の養成が必要▽

否や寧ろ、運轉手の横着から起ると云つても可い。現に人を轢いても、快速力を利用して、怪我人を見向も爲ないで、行方を晦まして了ふ場合も往々あるではないか。が、何にしても人のない爲めに、雇主は這麼不都合な手合にも、一ヶ月卅圓乃至五十圓の給料を拂はなければならない。加之に、彼等の横着するからそら人を轢いた、そら車を壊したと云つては、其度毎に迷惑を掛けられる、愚図々々云へば、新し

なつて居るのだ。

蟲聴の名所

岡本霞城

例年なく殊に長かつた盛暑も、けふ此頃漸く薄ぎ夜も長月となつた、常なれば清秋の好時候に乘じて、野がけ川狩り山めぐりに、同志を催し尻込禁制の撤を傳へ、市中はなれた郊外に四周かまわぬ宴を張り、一日の休暇を各自の得意隠し藝に打興じて、炎暑と戦つた命の洗濯、或は月の宴に託して、狼煙が集つた豆腐イの競争會も開かるべき季節。されども世は哀しき諒闇の第二期・八音過密の令はなくとも、忠誠無比の國民は、如何な氣樂人でも、駄羅騒する狂人の外には無く、さり逆蕭しく長い秋の夜を、讀書圍棋の嗜好なれば格別、如何にして是の愁を霧さんか、其には風流な古い雅趣を再興し

い屋主を搜しては飛出して了ふ。で、大抵の自動車會社では、昨今は自分の處で養成して居る。タクシーバーでも、一車は二人交代で運轉させる事に爲てある外、現に十數人の見習を養成中で、尙續々見習生を収容すると云つて居る。東京の重なる自働車持主を會員として、大隈伯を會頭に頂いて居る日本自動車俱樂部でも、運轉手の弊風の匡正に心懸けて、昨今雇主から一々運轉手の履歴を集めて居るが、纏ては之に依つて彼等の行動にも制裁を加へるし、又別に完全な運轉手の養成所を拵らへる計畫もある。さうだ。兎に角タクシー自動車は、別に帝國ホテルの林支配人に依つても、計畫されて居るが、之はホテルを中心として、重に宿泊客の送迎其他に充てられる目的ださうで、現在のタクシー會社では、自社の競争者は見て居ない。が、何にしてもタクシー自動車は、今は試みの時代で、遺憾なく東京で利用されるか什麼かと云ふ事は、其社會でも問題と

て、近郊の蟲聴きが適當と思はれる。今歲は署の永く續たゞけ、殊更鈴蟲松蟲其他の發生も多く、啼いの名所を擧てみると云々。

▼鈴蟲▲ 凡そ鳴く音を聽く蟲のうちで、最も聲

が麗はしくリーンリンと啼くふしの、優美な所から第一の位を占め、古來宮中へも奉進した事は、公事根源にも載てあるくらゐ、中流以上の雅客の愛翫されたのである。尤も此は野生を良しとして、鶯の雛が調子の優つた、鳴鳥に附て敷詠を矯めるのと異ひ近來流行の人工に孵化させられたまゝ、野末の露も味はずに蟲賣の籠に渡されたものと、千草の裡に育つて愉快に、同類と音樂を競奏して居るものとは、

その耳に野棲の蟲には、別段の餘韻に富んだ處が分